

技術情報

各関係機関団体の長
各病害虫防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病害虫防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率について

近年、イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率が高い傾向が続き、イネ縞葉枯病の発生も地域によっては多くなっています。本年も、イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率検定を実施した結果、下記のとおり保毒虫率が高い傾向にあります。

防除上注意すべき事項に留意し、防除対策指導をお願いします。

1 作物名 水稻

2 病害虫名 ヒメトビウンカ(イネ縞葉枯病)

3 保毒虫率

ヒメトビウンカ越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、採集地域で差はあるものの平均4.2%で平年(2.4%)より高く、前年(5.3%)よりは低くなっているが、依然として高い傾向にある。

第1表 地域別ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

採集地域	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	過去の保毒虫率(%)	
				2006年	2005年
宗像市河東	188	7	3.7	3.7	2.7
久留米市太郎原	188	6	3.2	4.3	3.2
久留米市田主丸町益生田	188	3	1.6	12.8	3.7
朝倉市菱野	188	12	6.4	6.9	6.9
筑後市馬間田	188	7	3.7	3.7	6.5
大川市北古賀	188	3	1.6	4.3	-
みやま市山川町北関	188	4	2.1	5.5	1.7
大木町上八院	39	2	5.1	4.3	7.6
八女市上陽町上横山	170	4	2.4	7.4	4.7
黒木町木屋	188	10	5.3	4.8	6.2
岡垣町黒山	188	9	4.8	3.7	1.9
みやこ町勝山大久保	188	20	10.6	-	-
平均			4.2	5.3	6.0

注)検定方法 エライザ

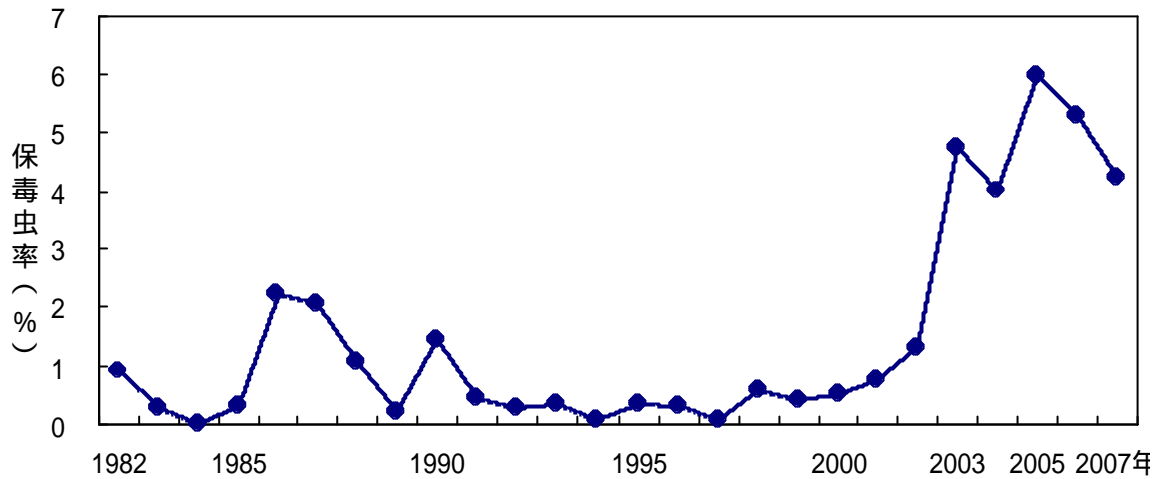


図1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の年次推移

4 防除上注意すべき事項

- (1) 縞葉枯病の多発地域や保毒虫率が高い地域では、感染防止対策として移植前に効果の高い箱施薬剤を施用する。
- (2) 箱施薬剤の選定に当たっては次の点に留意する。
 - ア 平成17年度に実施したウンカ類に対する薬剤感受性検定結果から、ヒメトビウンカに対する殺虫効果の低い薬剤は認められなかったが、フィプロニル剤については殺虫効果発現に時間を要することから縞葉枯病ウイルス感染防止効果は低いと考えられた。
 - イ イミダクロプリド剤は、トビイロウンカに対する感受性が低下傾向にあった。
 - ウ 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）が近年、多飛来してきているため、これら害虫のほ場での発生状況を確認の上、本田における補正防除の要否を判断する。
- (3) 縞葉枯病の発病株を認めたら抜き取る。